

日臨技関東甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第53回）報告

実行委員長 丸茂 美幸

日臨技が一般社団法人化されたことに伴い、それまでの地区は支部の区分けとなり、全国は7つの支部で組織されることになりました。関甲信支部と首都圏支部は、関東甲信地区として1都8県で活動していたものが、関甲信支部と首都圏支部に分かれての活動となりました。医学検査学会についても、関甲信支部、首都圏支部それぞれで開催をしてきましたが、特に首都圏支部は3年に1回の支部学会開催が大きな負担になることや、これまでの1都8県の繋がりの中で、学術部門については過去からの継続的な取り組みをしていきたい希望があり、今年から合同の開催が許可されました。回数については、「これまでの継続」ということから、今回は「第53回」と数えることになりました。

山梨という、全国でも下から数えたほうが早い規模の技師会が担当する学会ですので、会場、準備、運営、等どれをとっても不安だらけ、でも、チームワークだけはどこにも負けない、ということでスタートしたのが2年前でした。

各都県、実務委員、実行委員の協力により、一般演題135、総参加者数1070名の学会となりました。

また、狭い会場ではありましたが、展示は35の企業からご協力をいただきました。

今回の学会のメインテーマは「甲斐～そして未来へ繋ぐ」。「甲斐」は山梨を表す古くからの名称であり、「生き甲斐」、「やり甲斐」といった、日々の仕事や人生の充実につながる言葉としても使われます。そこに掛けた「甲斐」、そして、まだその歴史は浅い検査の世界ではありますが、先輩たちから受け継いだ有形無形の財産、今の私たちが持っている知識や技術、そういったものを受け継ぎ繋いでいこう、ということで、「そして未来へ繋ぐ」としました。検査を含めた医療全体が、発展と厳しさのはざまにある中で、これからの検査や検査技師がどうあるべきかを学ぶ機会になってくれれば、という思いも込めていました。今回は市民公開講座として、特別講演と文化講演の二つを行いました。特別講演には山梨が生んだ世界的なスイマーである、シドニーオリンピック競泳の萩原智子さんをお迎えし、「スポーツから学ぶ」のテーマのもと、恩師からの教え、家族の支え、ライバルとの関係等、スポーツを通したご自身の体験に基づいたお話をいただきました。様々な苦難を乗り越えての競技人生についてのお話しは、聴く者に大きな感動を与え、涙を堪えることのできなかつた人も多くいたようでした。文化講演は、「富士山信仰の歴史—吉田口を中心に—」。世界文化遺産に登録された富士山ですが、富士山は信仰の山であり、そこには富士山信仰の文化があります。そういったことをふじさんミュージアムの学芸員である篠原武さんにお話ししていただきました。

教育講演は「線虫による尿1滴でのがん検査—その技術と実用化について—」。線虫ががん患者の匂いを尿で識別していることを利用した、がんの早期発見によるがん死亡者の減少、医療費の大幅削減に向けた大変興味ある講演をいただきました。

「そして未来へ繋ぐ」のテーマに向けた企画は、各研究班によるシンポジウムという形式で行いました。「レジェンドが語る匠の伝承」です。この企画がその後の会員の日々の仕事に生かされ、「うちの病院のこの検査室は、当院にとって唯一無二の存在」と言われるようになっていってくれたら、学会担当県として幸甚であると思っています。

関甲信・首都圏支部の皆様、山梨の会員の皆様、賛助会員の皆様、今回の学会開催に当たり、多大なご協力をありがとうございました。